

あいち農産物生産流通レポート

平成18年8月号

情報サロン		
・純白で花の大きい一輪ギク品種「白粹」を開発 (農業総合試験場)	-----	1
地域トピックス		
・「知多南部総合卸売市場 開場20周年記念 市場まつり」が 開催されました (知多農林水産事務所)	-----	2
東日本情報		
・平成17年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について (東京事務所)	-----	3
西日本情報		
・市場の活性化を図る取り組み ～神戸東部青果卸売協同組合の農業参入について～ (食育推進課)	-----	5
フラワーページ		
・街の花屋さんの独り言 (株式会社花の美芳園 専務取締役 山内邦彦)	-----	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	-----	9
花 き		
・切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2006年5月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

純白で花の大きい一輪ギク品種「白粋」を開発

育成目標

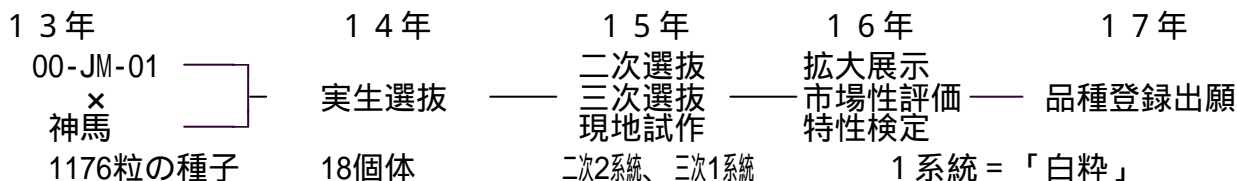
愛知県の切り花ギクの生産額は、県全体の花の生産額の45%を占める代表的な作目です。特に一輪ギクは生産戸数約2,000戸で、平成17年の出荷量は4億3,070万本（全国占有率40.8%、全国第1位）と、本県の花き生産において最も重要な品目となっています。

しかし、近年導入された「精興の誠」や「神馬」などの品種は、収量が多く、生育の揃いが良く作りやすいなどの長所がある一方、生理障害が発生したり、開花が遅れるなど欠点も目立つ品種です。

そこで、農業総合試験場では、県内のキク生産者の多数が加入している愛知県花き温室園芸組合連合会きく部会と共同で、収量が多い、品質が良いなど優れた特徴を持つとともに、栽培上の欠点が少なく、全国をリードできる品種の育成に取り組みました。

育成経過

「白粋」は、13年11月に当场が保有していた、花形が良く、秋から春まで安定して開花が安定する系統「00-JM-01」に、現在の主力品種「神馬」を交配して得た1,176粒の種子から選抜、育成した品種です。17年10月に品種登録の申請を行いました。



「白粋」の特性

- ・現在の主力品種（精興の誠、神馬）に比べ、優れた伸長性を有し、生育及び開花が早い。
- ・生理障害はなく、開花のばらつきも少なく、10月から6月まで安定した品質の切り花が出荷できる。
- ・花の色が純白で、形が良く大きな花が咲く。
- ・花と茎と葉のバランスが良い。
- ・水揚げ、日持ちが良い。



一輪ギク「白粋」

普及に向けて

「白粋」は、15年秋に現地で試作を開始し、16年には試作の規模を大きくするとともに、市場性の調査を行い、良い評価を得ることができました。

17年秋からは、現地で本格的な栽培が始まり、今年は田原市を中心に作付けが行われ、800万本が出荷される予定です。今後更に栽培が広がり、生産者と共同で育成した県のオリジナル品種として、日本一の一輪ギク産地を支えていくことを期待しています。

「知多南部総合卸売市場 開場20周年記念 市場まつり」が開催されました

平成18年5月21日(日)に知多南部総合卸売市場において、開場20周年を記念して市場まつりが開催されました。

この市場は、昭和61年5月に知多南部2市4町(半田市・常滑市・阿久比町・南知多町・美浜町・武豊町)と株式会社知多総合卸売市場の出資による第3セクター方式として開場しました。平成17年度の取扱実績は、約2万トン、42.5億円となっています。

式典では、まず、主催者として開設者の代表取締役である榊原半田市長が「今後も地域のみなさんに期待される市場としての確かな運営と諸施策を講じていく」と述べられ、卸売会社の間瀬社長は「消費者のみなさんに安全・安心な青果物・水産物を今後も供給していく」とあいさつされました。続いて、市場関係者に表彰状が授与され、生産者に感謝状が贈呈されました。また、一日市場長として阿久比町在住のミステリー作家、海月ルイさんが任命されました。

当日は、午前8時からまつりが始まり、早朝から多くの来場者でにぎわいました。まつりでは、買受人グループによる青果・水産物販売コーナーやテナント会による即売コーナー、協賛各社・メーカーによる試食・試飲・販売コーナー、農業改良普及課による環境にやさしい農業紹介コーナー、野菜・果物づくり相談コーナーが設けられました。また、特設ステージでは、模擬セリ市、マグロ解体ショー等が行われました。

来場者は、お目当ての品物を競って購入し、様々なイベントを満喫していました。このまつりは、来場者に市場を身近に感じていただき、あらためて生産者と消費者を結ぶ市場の役割を知っていただけることとなりました。



模 擬 セ リ 市



マ グ ロ 解 体 シ ョ ー

平成17年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について

7月4日に品川区において京浜地区の卸売会社・愛知経済連・愛知県が出席して、京浜市場愛知県野菜連絡会主催による秋冬野菜販売反省会が開催されたので、その概要をまとめました。

1 販売結果概要

平成17年度の京浜・関東市場における愛知県秋冬野菜については、秋以降は台風等の天候による被害もなく順調に推移していましたが、年末には寒波の影響で降雪があり、年明け以降も冷え込みの影響で生育が遅れたため、入荷が少ない傾向となりました。キャベツは寒波の影響で入荷減となり高値傾向となりましたが、トマト類などは寒さの影響による消費低迷により安値傾向が続きました。3月以降は、天候の回復により相場は落ち着きを取り戻してシーズンを終了しました。

愛知県産の野菜の販売状況は、経済連東京営業所扱いで23,326百万円（前年度対比103%）、数量は90,933トン（同114%）、単価は257円/kg（同90%）となりました。

関東・東北市場における愛知県野菜の販売実績 [単位：百万円]

販売金額 上位5品目	17年度	16年度	15年度	14年度	13年度
キャベツ	4,346	4,296	3,507	4,006	2,722
ブロッコリー	1,486	1,239	1,601	1,547	1,546
トマト	3,174	3,917	3,744	3,715	3,346
ミニトマト	3,216	3,186	2,912	3,557	3,366
おおば	4,234	3,819	4,215	5,349	4,904
野菜 計	23,326	22,619	23,085	25,193	22,536

（数値提供：JAあいち経済連東京営業所）

2 品目別販売概要（京浜市場愛知県野菜連絡会の各研究会がまとめたもの）

(1) キャベツ

ア 販売経過

年内においては、夏秋期のキャベツの残量と関東産キャベツが豊作型で推移したために比較的安値の展開でしたが、12月中旬以降の全国的な寒波により出荷量が減少し、また相場も堅調へと転じました。度重なる降雪等もあり、年末に近づくに従ってさらに高値となりました。年明けにも引き続き寒波が続き、小玉傾向のまま推移しました。特売等も小玉での対応となり、単価も堅調に推移しました。全国的に低温、干ばつでしたが2月下旬以降の降雨と一時的な気温の上昇により玉の肥大が一気に進み、大玉の増加で特に冬キャベツを中心に相場が下落し始めました。3月中下旬は量も多く良いものが出回り、比較的落ち着いた相場となりました。

イ 競合産地の動向

千葉県：本県産同様、12月中旬以降の寒波の影響により前年を下回る出荷となりました。年明けも少なめの出荷が続き、価格も堅調でしたが、3月中旬以降トウ立ち等の品質低下が見られたものの、愛知県産を最後まで追いかける形となりました。

神奈川県：低温の影響により出荷量はまとまらず、また3月以降の春キャベツの大幅な出荷遅れで春の商材としての供給がうまくできませんでした。

輸入：加工筋を中心にほぼ常時輸入されていましたが、中国産等でも作柄が悪く前年よりも少なめの輸入量でした。1月中旬に残留農薬の問題があり、その後通関に手間取るようになり実質的に若干減となりました。

ウ 消費動向

年内からの寒波の影響でキャベツ以外の品目でも長期にわたり堅調な価格推移と

なり、やはりキャベツが特売の目玉となりました。1個売りの特売では昨年同様9玉10玉がよく使われました。また、加工筋においては中国産の入手がスムーズにできなかったが、3月以降の本県産の大玉がうまくその需要にあてられ、大量に動きました。

エ 野菜連絡会から愛知県への提言

- ・ 加工契約取引の推進と安定して購入する顧客の確保に向けた営業
- ・ 8玉中心の出荷と9玉の品質レベルの向上
- ・ 3月、4月の春系キャベツの品種検討
- ・ 週間値決めや月値決め等の条件付き販売、売り込み先を決めてのルート販売の再検討

(2) トマト

ア 販売経過

西南暖地の出荷が始まる10月以降、12月までは堅調な価格で推移しました。特に11月上旬は全国的に出荷が少なく、高単価でした。12月年末までは堅調でしたが、年末から年始にかけて急激な出荷増と年始以降の消費低迷も重なり、価格は下落しました。その後1月から2月にかけての厳冬期に消費停滞が続き、長引く安値となりました。

イ 競合産地の動向

熊本県：作付面積前年並み。黄化葉巻病対策による定植の遅れは依然あるものの、年内出荷率を高める動向にある。

主要品種：ハウス桃太郎、桃太郎J

静岡県：作付面積横ばい。一部の産地で普通トマトからミニトマトへの移行が進んでいる。

主要品種：桃太郎ヨーク、桃太郎はるか、優美

千葉県、栃木県他：基本的に食味重視の王様系品種の導入が盛んになっている。

ウ 消費動向

厳冬期(1月～2月)の需要停滞は見られ、次年度も課題とされます。反面、年内の消費動向は堅調であるため、各産地とも年内出荷率の向上が高まっています。ファーストトマトは春には欠かせない商材としての位置を確保しています。

エ 愛知県への提言

引き続き年内出荷量の確保が重要であるとともに、厳冬期(1月～2月)における消費拡大を具体的に立ち上げる必要があり、愛知トマトの顔としてファーストトマトの出荷量確保が望まれます。

(3) ミニトマト

ア 販売経過

年内は、年々深刻化する「黄化葉巻病」の影響もあり、数量は決して多くなかったことから、極端な高値ではなかったものの堅調な価格で推移し、年末も価格は維持できました。年明け1月～2月は、重油の高騰の中、年末・年始に出荷が集中した影響もあり、極端な安値で推移しました。3月に入り、気温の上昇に伴い徐々にではあるが数量が回復する中、単価も下げに転じました。4月は、それまでの低温の影響から各産地とも数量は伸びず、月末に向けて相場上げの展開となりました。

5月は、連休中相場は安定した価格で推移したが、連休明け以降価格は下げに向かいました。品質面は、裂果、裂皮等の問題は少なく、安定した品質を維持できました。

イ 競合産地の動向

千葉県：作付面積前年並み、

熊本県・宮崎県：作付面積やや減。ミディトマト等への移行。

ウ 消費動向

安心でおいしいミニトマトの要望が強い。

エ 愛知県への提言

- ・ おいしいミニトマトづくり
- ・ 品質の安定(裂果の防止、個人格差の是正)
- ・ 的確な産地情報の提供と計画的な安定出荷

市場の活性化を図る取り組み ～神戸東部青果卸売協同組合の農業参入について～

近年、卸売市場を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。神戸市東部中央卸売市場にある神戸東部青果卸売協同組合（以下、「同組合」とする。）では、平成16年から神戸市の農業特区内で農業に参入し、青果物のトータルプランナーを目指すとともに、市場の活性化を図っています。今回はこの取組を紹介します。

神戸東部青果卸売協同組合

神戸市東部中央卸売市場は、神戸市の東部地区（東灘区、灘区、中央区）を中心に隣接する芦屋市、西宮市等の周辺都市を対象に生鮮食料品、花と緑の流通の要として大きな役割を果たしています。

同組合は東部市場の39仲卸会社による組合です。

神戸市の農業特区「人と自然の共生ゾーン特区」

神戸市の農業は施設型農業が中心で、企業的な農業経営が進んでいる一方で、土地利用型農業は依然として家族労働が主体で、高齢化等による担い手不足のため、耕作放棄地の拡大が懸念されています。従来から「人と自然との共生ゾーン条例」に基づく、土地利用規制と地域が策定する里づくり計画により、土地利用をコントロールするなど、地域住民と市が共同して総合的な地域施策を進めていました。さらに、こうした取組と特例措置を結びつけることにより、農業経営の強化や農村の活性化を目指しており、15年11月に「人と自然の共生ゾーン特区」が農業特区として国から認定されました。

・人と自然の共生ゾーン区域 約18,000ha



東部中央卸売市場の様子

神戸東部青果卸売協同組合が農業参入

同組合は、土づくりから種まき、収穫、そして調理等の実体験を通じ、青果物のトータルプランナーとしての知識を身につけるとともに、産地や学校、地域社会との交流・連携活動を積極的に行い、市場の活性化を目指して、16年より農業に参入しました。

・これまでに栽培した品目

大根・人参・キャベツ・白菜・小松菜・ほうれん草・ねぎ・ブロッコリー

ジャンボ南京・トマト・茄子・オクラ・オクラ・枝豆・里芋・さつま芋・西瓜

・栽培面積

1,910㎡

・栽培管理

地権者から栽培指導を受けながら、同組合の農業特区運営委員会のメンバーが日常作業を行っている。

・収穫した青果物の利用

青果物は、地元の福祉施設や福祉団体に寄贈したり、神戸市主催の「みのりの祭典」で販売する。また、婦人団体との交流会で調理に用いたり、大量に収穫した場合は、農業特区運営委員会のメンバーが自社で販売することもある。

農業参入による効果

農業を体験することで、説得力のある販売活動ができるようになったほか、ほ場に婦人団体や子供達を招き、大根やさつま芋の収穫を体験してもらうことで、地域との交流も深まりました。また、収穫した青果物は地域の人達からも好評で、「みのりの祭典」ではすぐに売り切れになるほどでした。

市場を取り巻く環境が厳しくなる中で、ライバル同士の仲卸業者が互いに協力し合いながらの農業参入は、単なる農業体験にとどまらず、地域を始めとする多くの人達との信頼関係を築きながら、食育や地域との交流、地産地消等の活動へと広がりを見せています。

愛知県内の動き

名古屋市中心卸売市場北部市場では、昨年10月に名古屋市北部市場50周年記念として「わくわくふれあいまつり」が行われました。1日だけの開催でしたが、青果物の販売等が行われ、地域の人を中心に多くの人でにぎわいました。近年、食の安心・安全に対する意識や食育に対する関心がますます高まる中、卸売市場も流通を担うだけでなく、今まで以上に地域の人々や産地から信頼され、愛される存在になるための取り組みが求められています。

街の花屋さんの独り言

新聞やテレビ等の報道によると、「景気が底を脱し、緩やかにではあるが回復しつつあるように思われる」だそうだ。しかし、我々中小零細の経営者には、日銀の短観や政府や専門家の発表説明を聞いてもいっこうにピンとこないのであるが、はたして自分だけなのだろうか？



随分前になるが、「花卉産業3兆円規模に」なんて懐かしい記事を目にしたことがある。当時でも、内訳は60%強が業務用途でホテル・葬儀・一般企業等々であり、この数字は、今の経済事情では、かなり縮小（減少）していると断言できるし、残り40%を一般消費とすると、ここに大手流通業の参入による大規模小売店舗の進出・乱立によって街の花屋さんの売り上げ比率はどうなっているのだろうか？



朝、いつものように市場に仕入れに出かけた際、市場関係者からこんな言葉を耳にした。

「花の相場(卸売価格)が、高くなることはないね！天災か天候不順による極端な供給不足以外には…。まあ、うちも大変だけど、生産者はもっと、大変だろうね。良いもの(高品質品)を作り出荷しても、良い値段で売れないんだから！」

確かに、我々花屋には、古き良き時代の不勉強のつけが来たことは、他の業者と同様かもしれない。今、業界では『専門店として、生き残り続けるため・・・』と聞くことがしばしばあるが、人手不足・石油の高騰によるコスト増加・後継者問題等々を考えるとなんだか大げさであるが、日本中から街の専門店が消滅していく様な気がして、寂しい気持ちになった。



愛知産青果物の動向

名古屋市中央卸売市場（品目：いちじく）

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	342	342 (100%)	473	473	
18年見通し	300	-	500	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>曇りや雨の日が続き、秀品が少ない状態である。また、冬の低温により生育に遅れも見られる。お盆の頃にハウスものの残りや露地ものが重なる見込み。食味は良好である。</p> <p>8月の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>愛知産が100%を占めている。いちじくは昔からなじみのある果実として特に中高年世代に安定した人気がある。試食販売等を行い、若い世代へも浸透して欲しい。</p> <p>また、カビの被害が出やすいので、厳しい選果を行い、品質の良いものを出荷して欲しい。</p>		

東京都中央卸売市場（品目：にがうり）

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
17年実績	797	10 (1%)	249	288	長崎 (23%) 鹿児島 (17%) 宮崎 (15%)
18年見通し	800	-	240	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>沖縄産は5月、6月のピークを過ぎて入荷が減少し、長崎、鹿児島、宮崎の九州産地と茨城、群馬、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。</p> <p>全体の入荷量については前年並みで、価格についても前年並みの見込み。</p>			<p>にがうりは数年前までは沖縄、九州からの入荷が中心であったが、近年の健康志向の高まりから、その他の産地でも作付されるようになり入荷量が増加している。</p> <p>にがうりを使った料理は一般の家庭にも浸透してきており、健康に対する消費者の関心は引き続き高いことから今後も根強い需要が期待される。他産地との差別化を図るため品種等の検討を行っていくことが必要である。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成12年 = 100				
		愛知県 平成12年 = 100				
全 国	17年平均	97.8	103.3	99.6	106.0	95.3
	18年 1月	98.1	126.1	99.9	106.3	96.1
	2月	97.8	111.2	99.2	106.6	96.0
	3月	98.0	104.4	96.2	96.3	97.2
	4月	98.3	109.0	91.3	106.8	99.0
	5月	98.8	110.6	109.8	107.0	98.4
愛 知 県	17年平均	97.5	103.9	93.9	103.7	96.3
	18年 1月	97.6	122.9	92.5	104.3	98.0
	2月	97.2	106.3	94.0	103.8	99.2
	3月	97.5	99.8	94.3	103.1	102.2
	4月	98.0	105.1	90.1	102.8	105.2
	5月	98.4	111.4	104.1	104.0	104.0

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年 1月		107.8	87.2	145.4	91.5	106.9
2月		106.3	91.7	126.3	103.2	107.4
3月		104.0	91.9	114.9	94.6	106.4
4月		106.2	92.0	122.0	104.1	107.2
5月		100.7	92.4	109.8	92.6	108.0

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・・・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・・・愛知県企画振興部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしよ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 1月	2,370	255	150	714	691	268	157	308	230	774	661	213	420
2月	2,247	194	146	621	523	261	167	296	220	638	568	166	443
3月	2,247	144	152	531	406	282	178	308	227	600	631	175	502
4月	2,247	186	197	538	359	290	195	379	220	486	683	187	511
5月	2,255	218	230	616	410	296	165	461	235	425	625	195	539
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル プ イツ	オレ ンジ	いちご	バナ ナ	キ ウフ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ イ ネシ イ オン	き く	バ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg						100g	1 本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 1月	399	380	442	175	228	671	617	153	175	313	231	833	509
2月	410	393	390	168	242	603	617	156	176	326	229	760	498
3月	423	387	383	150	232	646	617	156	172	324	235	787	483
4月	-	350	378	123	250	643	617	160	173	321	231	741	493
5月	-	350	361	129	243	634	617	186	158	322	240	767	489

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	:	± 2 % 台以内
やや	:	± 3 ~ 5 % 台
かなり	:	± 6 ~ 15 % 台
大幅	:	± 16 % 以上



あいち農産物生産流通レポート 398
平成18年8月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417